

2022年度 関東学生水球リーグ戦水球 【戦評】

会場：慶応義塾大学

【2022/5/15】

この試合のプレー集計

1部								
	早稲田大学	7	[3 2 2 0	— — — —]	8	中央大学
				1 2 1 4				
				PSO				
	審判：			新井 陸士 田原 忠雄				

早稲田大学	33	SH数	27	中央大学
	5	速攻数	10	
	14	ST・SB	7	
	3	SH・P誘発アシスト	7	
	43%	GK阻止率	53%	
	13	EX反則数	9	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

両チームともにリーグ戦での白星がまだなく、どちらが初勝利をあげるかがかかった一戦。

1P

先制したのは早大。中大のシュートミスを書いて⑩都田が退水を奪ってそのままゲットした。対する中大も、早大のシュートミスを書き、⑪竹村が退水を奪ってそのまま同点に持ち込むという、両チームともにほとんど同じ展開となった。その後、中大側の攻撃が初日同様、ボールを長く持つ傾向があって攻め手を失い、オーバータイムからの失点が続いてしまった(早大3-1中大)。こうしたパス展開の遅さは、センターへのDFを容易にしまい、そのことで攻め手を失うという悪循環が初日から続いていた。

2P

このピリオドも似たような展開となり、早大側が相手ボールを⑦曳地、⑫中村が奪取してからのペナルティ、退水誘発で連続得点。中大側はやや攻め方が遅いことからプレッシャーを受けた序盤となってしまった。しかし、中盤からは少しずつボールが回るようになり、早大のコントラ反則やシュートミスを書き、逆に退水、ペナルティで2点を返して前半を折り返した。早大としてはリードしてからの攻撃時のミスが失点につながった形で、やや安全圏の得点差という状況を考えれば、確実な攻め方を選択することがセオリーだった。早大5-3中大。

3P

このピリオドも双方あまり動きがないまま展開したが、中大のシュートミスを書いてようやく早大が速攻を⑩都田が決めて3点差に。その後は決め手に欠く双方の攻防が続いたが、早大のオーバータイムを中大がついて退水を誘発。そこでベンチが動いてタイムアウト。長いラリーが続いた後ただけに、このタイムアウトは休憩を含めて有効策であった。そこを⑪竹村が決めて再び2点差に詰めた。このあたりから中大側の動きがよくなっていったが、中大のシュートミスから早大⑤土橋がセンターで退水を誘発して、そこを⑦曳地が決めて早大7-4中大の3点差で最終ピリオドへ。

4P

このピリオド、動きが目立ったのが中大⑥針谷。積極的に泳ぐのはジュニア時代から定評のあった選手だが、明らかにゲームの流れを変える動きを見せた。その動きで早大のシュートミスからペナルティを誘発して、そこを⑪竹村が決めて2点差に詰め寄ったが、このペナルティ誘発には⑪竹村が先を読むプレーで⑥針谷をアシストした形。こうなると、中大側が上げ潮に。リーグ戦初戦の筑波大戦で見せた全員DFで早大側に好機を渡さず、無理なシュートからのカウンター攻撃狙いに。その作戦に早大側を巻き込むことに成功し、中大⑥針谷の速攻が決まってとうとう6-6の同点に。こうなると、完全に中大がゲームを支配した流れとなり、最後は③谷が奪ったペナルティを自身が決めて逆転。最後、早大側も退水からのタイムアウトで懸命に追いつがるがシュートが決まらず万事休す。中大が逆転勝利でリーグ戦の初白星をあげた。